

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	統括部局：研究推進社会連携機構	担当部局：研究推進社会連携機構
大項目	10 社会連携・社会貢献（研究科）《全学的な視点》	
中項目		
小項目	10.0.1 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。	
要素	産・学・官等との連携の方針の明示 地域社会・国際社会への協力方針の明示	
小項目	10.0.2 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。	
要素	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動 学外組織との連携協力による教育研究の推進 地域交流・国際交流事業への積極的参加	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究業績データベースを整備する。(機構)	→「研究成果の国内外への発信および評価における実績」「文部科学省など国内外の研究機関等による支援事業や研究資金への申請実績および採択実績」「研究業績D Bへの登録率(=研究業績等のD Bへの反映率)および更新率(履歴や研究業績等について何らかのデータ更新を行うこと)」(機構)	C	C	C		
2. 知的財産の創造・確保・活用=知的創造サイクルの活性化を促進する。(機構)	→「研究シーズの紹介実績(機構ホームページでの公表実績)」「研究成果の事業化実績」(機構)	B	B	B		
3. 「知財が解る関学生」を社会に輩出するため、知的財産教育の全学的取り組みを推進する。(機構)	→「知的財産に関する授業の開講数および受講者数」(機構)	B	B	B		
4. 受託研究・学外共同研究・寄付研究を拡充し、産学官等との連携を強化する。(機構)	→「受託研究・学外共同研究・寄付研究の実績(件数、金額)」(機構)	B	B	B		
5. 地域・自治体・地元企業等と本学研究者・学生の連携により、学生への学びのフィールドを提供するとともに、地域活性化プロジェクトを推進する。(機構)	→「地域・自治体・地元企業等との連携による学生への学びのフィールドの提供数及び参加学生数」「地域と研究者・学生の連携による地域活性化プロジェクトの実施数及び参加研究者数・学生数」(機構)	B	B	B		
6. 大学(院)コンソーシアムの活動を基盤とした社会貢献活動・国際社会との連携を強化する。(機構)	→「大学(院)コンソーシアムの活動を基盤とした社会貢献プログラム・国際プログラムの実施数及び参加学生数」(機構)	B	B	B		
7. 大阪梅田キャンパスにおける社会人(同窓・団塊の世代)に向けた連続教育講座を開講する。(教務部)	→2010年度から3年間における「受講者の満足度」「定員充足率」「収支の均衡」(教務部)	B	A	A		
8. 各種生涯学習プログラム(既存事業)の運用につき定期的検証を行い、スクラップ・アンド・ビルトを行う体制を確立する。(教務部)	→「大学としての重要性」「受講者の満足度」「定員充足率」「既存プログラム毎の収支の均衡」(教務部)	B	B	B		
9. 生涯学習課プログラムの実施において、学内・外の機関とより一層緊密な協力関係を構築する。(教務部)	→「学内・外機関との共同推進の割合」(教務部)	B	B	A		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	新中期計画において、現行の研究業績データベースを「教育実績・社会貢献等も加え、英語などの外国語版を含めた統合型データベースとして整備する」ことを実施計画として策定したが、「学内での議論が不十分であること」及び「新システムの検討・導入作業に割く人員が確保できない」等の理由により、整備が遅延した。
目標2	「知的財産の創造・確保・活用＝知的創造サイクル」活用化の具体的な施策の1つが、機構ホームページで紹介する本学のシーズ数を増やす取組みである。シーズ数の増加は2010年度研究者数31名、シーズ数49に対し、2011年度研究者数33名、シーズ数54と微増であった。
目標3	2011年度は、昨年同様、秋学期に全学部生を対象に「イノベーション政策と知的財産入門」（西宮上ヶ原キャンパス・秋学期・4時間）を開講した。
目標4	「知的財産の創造・確保・活用＝知的創造サイクル」活用化の具体的な施策の1つが、寄付研究、受託研究、学外共同研究などの外部資金導入件数・導入金額を増やす取組みである。導入件数の増加は、2010年度87件に対し、2011年度96件と微増ではあったが、導入金額は2010年度252,618,000円に対し、2011年度209,637,000円と減少した。
目標5	地域・自治体・地元企業等と本学研究者・学生の連携により、学生への学びのフィールドを提供するとともに、地域活性化プロジェクト等の維持に努めた。2011年度は引き続き地域FW（西宮、宝塚、伊丹）や宝塚市・池田市・福井県勝山市との連携事業を推進した。
☆ 目標6	西宮大学交流協議会、大学コンソーシアムひょうご神戸、特定非営利法人関西社会人大学院連合等大学（院）コンソーシアムの活動を基盤とした社会貢献活動・国際社会との連携に努めた。特に大学コンソーシアムひょうご神戸においては、2010年度まで本学が代表校として取り組んだ文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」の事業を継承し、本学が委員長校を務める国際交流委員会にて所管・実施した。
目標7	2010年度より大阪梅田キャンパスにおいてK. G. 梅田ゼミを開設した。ゼミは前期、後期各12コースを設定している。2011年度は総定員720名、のべ申込者数680名であり、定員充足率94%となっている。受講者満足度も高く、収支は約530万円の黒字である。
目標8	生涯学習委員会、教務部連絡会において各プログラムの「大学としての重要性」「受講者の満足度」「定員充足率」「既存プログラム毎の収支の均衡」の観点よりプログラムの見直しを行っている。
目標9	各種プログラムの実施委託機関、各行政機関（西宮市、三田市、宝塚市、大阪府、大阪市等）、関西社会人大学院連合、学内関連機関（大阪梅田キャンパス事務室、東京丸の内キャンパス、西宮聖和キャンパス）との連絡・調整を頻繁に実施し、より一層緊密な協力関係を構築した。その結果、各プログラムへの共催、後援や各プログラムの実施に際しての広報や受付などの支援を得ている。
備考	